

意外と知らない!?

日常治療薬の

基本と新常識

序仲里信彦 3 (2535)

第1章 循環器治療薬の基本と新常識

1. うっ血性心不全の体液貯留の薬物治療澤村匡史 10 (2544)
1. うっ血性心不全の治療での利尿薬の位置づけ 2. ループ利尿薬 3. その他の利尿薬 4. トルバ
ブタン 5. 塩分制限と水分制限
2. 降圧治療における配合剤の使い方北川 泉, 梶波康二 19 (2553)
1. 降圧療法の進め方 2. どの薬剤を選ぶか(病態に合わせた選択) 3. どの薬剤を選ぶか(薬剤か
らの選択) 4. 配合剤の特徴
3. 抗血小板薬の使い分け仲井 盛 26 (2560)
1. 各抗血小板薬の特徴 2. 抗血小板薬の休止 3. 疾患別抗血小板薬の使い方 4. ワルファリンと
抗血小板薬の併用 ● Advanced Lecture

第2章 呼吸器治療薬の基本と新常識

1. 喘息知花なおみ 34 (2568)
1. 外来での喘息治療: 評価と治療ステップ 2. 喘息治療薬 ● Advanced Lecture: SMART 療
法: single inhaler maintenance and reliever therapy
2. 慢性閉塞性肺疾患の薬物療法
～安定期 COPD の吸入薬および内服治療を中心に喜舎場朝雄 42 (2576)
1. 抗コリン薬について 2. 吸入ステロイドについて 3. ICS/LABA 配合剤について 4. 去痰薬に
ついて 5. マクロライド系抗菌薬について 6. COPD の急性増悪の治療について ● Advanced
Lecture

第3章 肝臓疾患における治療の基本と新常識

1. B型・C型慢性肝炎の治療

誰をいつどのように治療するのか山崎 大 50 (2584)

1. B型慢性肝炎：1. 自然経過 2. 治療対象 3. 治療目標 4. 抗ウイルス療法 ● Advanced Lecture 2. C型慢性肝炎：1. 治療対象 2. 治療目標 3. 抗ウイルス療法 4. 肝庇護療法

2. 肝硬変合併症に対する薬物治療の基本加藤 新 61 (2595)

1. 肝硬変症の臨床症状 2. 肝硬変症の薬物療法の目標 3. 肝硬変合併症に対する薬物療法 ● Advanced Lecture

第4章 糖尿病薬・インスリンの基本と新常識

1. 2型糖尿病における経口糖尿病薬の使い方星 哲哉 68 (2602)

概論：経口糖尿病薬選択のポイント 各論：1. ビグアナイド薬 (BG薬) 2. スルホニル尿素薬 (SU薬) 3. DPP-4阻害薬 4. チアゾリジン薬 (TZD薬) 5. 速効型インスリン分泌促進薬 (グリニド薬) 6. α -グルコシダーゼ阻害薬 (α Gl薬)

2. インスリン療法有村愛子, 出口尚寿 79 (2613)

1. インスリン治療の適応 2. インスリン療法を理解するための基礎知識 3. インスリン製剤 4. 強化インスリン療法 5. 経静脈栄養管理時のインスリン療法 6. インスリンと経口血糖降下薬の併用 7. GLP-1製剤

第5章 脂質代謝異常・高尿酸血症治療薬の基本と新常識

1. 脂質代謝異常治療薬平良 剛 88 (2622)

1. どう検査を進めるか 2. 各薬剤の特徴 3. どの薬剤を選択するか? 4. 薬物治療開始のタイミングと治療目標

2. 高尿酸血症治療薬篠原直哉 96 (2630)

1. 薬の種類 2. 適応 3. 処方の際の注意点 4. 高尿酸血症治療薬以外の薬 5. 新薬

第6章 分子標的薬・生物学的製剤の非専門医のための基本

1. 血液疾患における分子標的薬の基本中野伸亮 103 (2637)

1. 抗体薬 2. 小分子薬

2. 関節リウマチ治療における生物学的製剤の基本 …尾崎貴士, 山下裕之 111 (2645)

1. 生物学的製剤の種類 2. 日常診療における関節リウマチの治療指針 3. 投与禁忌と慎重投与 4. 副作用とその対策 5. 生物学的製剤の選択 (初回投与時) ■ 症例 ● Advanced Lecture

第7章 その他の薬の基本と新常識

1. 末期腎不全や透析時の治療薬宮良 忠 123 (2657)
1. 貧血管理 2. 高カリウム血症 3. 代謝性アシドーシス 4. CKD-MBD 5. 尿毒症性物質
■ 球形吸着炭 クレメジン®
2. 排尿障害の治療薬西垂水和隆 135 (2669)
1. 排出障害治療薬 2. 蓄尿障害治療薬 ● Advanced Lecture : 1. コリン作動性クリーゼ
2. 残尿測定法
3. 疼痛治療薬仲谷 憲 141 (2675)
1. がんの痛みからの解放 (WHO) [がん疼痛治療ガイドライン 1986年] 2. 痛み (疼痛) の定義 [国際疼痛学会 (IASP) 1979年] 3. 痛みの分類 4. NSAIDsとアセトアミノフェン 5. オピオイド 6. 鎮痛補助薬 ● Column : オピオイドと麻薬
4. 抗不安薬と睡眠薬の使い方
ベンゾのべからず7カ条井上幸代 149 (2683)
1. ベンゾジアゼピン系薬剤とは 2. ベンゾのべからず7カ条 3. じゃあ、何を処方するの? ~なるべくベンゾ以外を使おう~ ● Advanced Lecture : ベンゾのやめ方
5. 海外旅行のときに気をつける感染症の予防加藤康幸 158 (2692)
1. マラリア予防内服 (Malaria chemoprophylaxis) 2. 海外渡航者のための予防接種 (Travelers' vaccine) 3. 狂犬病曝露後発症予防 (Post-exposure prophylaxis for rabies) ● Advanced Lecture : ドラッグ・ラグ
6. 抗HIV療法 (ART)今村顕史 166 (2700)
1. 抗HIV療法の難しさ 2. 抗HIV療法の基本 3. バックボーンとキードラッグ 4. 効果増強剤と合剤について 5. 現在の治療ガイドラインを再確認 6. 抗HIV薬の副作用 7. 相互作用には注意が必要 8. 薬剤耐性と服薬アドヒアランス 9. 長期合併症と治療開始時期 ● Advanced Lecture
7. パーキンソン病治療薬の新しい展開神里尚美 173 (2707)
1. 病態と治療の概要 2. L-Dopa (L-ドパ) 3. ドパミン作動薬 4. その他のパーキンソン病治療薬 ● Advanced Lecture

第8章 薬を使うときの基本的な心構え

1. 新薬が出てきたら…
—使う前に考えること—尾原晴雄 183 (2717)
1. 新薬について、まず考える 2. 新薬の処方の際して 3. 新薬を処方した後 4. 新薬に関する情報収集 —医師と製薬会社の関係を中心に—
2. polypharmacy (特に高齢者医療)仲里信彦 190 (2724)
1. polypharmacyの原因 2. polypharmacyによる有害事象 (特に高齢者) 3. polypharmacyを回避するために
3. P-Drug (パーソナルドラッグ)小西竜太 195 (2729)
1. P-Drugの考え方 2. P-Drugの選択

● 索引	201 (2735)
● 執筆者一覽	204 (2738)